

議会運営委員会会議録（令和6年6月10日）

出席委員 原委員長 青山副委員長 吉森委員 岩城委員 古沢委員 開田委員
尾崎議長（オブザーバー）

欠席委員 なし

職務のため出席した事務局職員 石井局長 中田局長補佐

午後0時19分開会

【原委員長】 これより議会運営委員会を開催いたします。

会議日程は、お手元に配付したとおりであります。

日程第1 会議録署名委員の指名をいたします。吉森委員、開田委員にお願いをいたします。

日程第2 請願、陳情、意見書等についてを議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

【石井局長】 前回の議会運営委員会から6月5日水曜日の締切日までに、意見書の提出要請が1件提出されました。

一覧表の資料3、富山県労働組合総連合からの「最低賃金の引上げ及び中小企業への支援拡充を求める意見書の採択を求める陳情」であります。

最低賃金の大幅な引上げや最低賃金の地域間格差の是正、最低賃金引上げの際には、中小企業への支援の強化を求める意見書を提出していただきたいとのことで提出されたものでございます。

これにつきましては、それぞれの会派・グループに持ち帰って協議していただき、協議結果は、さきの意見書1件と合わせて、6月18日の本会議前の議会運営委員会で報告していただきたいと思います。

以上です。

【原委員長】 以上ですか。

【石井局長】 はい、以上です。

【原委員長】 ありがとうございます。

ただいまの事務局の説明に、ご質疑ありませんでしょうか。

（質疑する者なし）

【原委員長】 それでは、新たな意見書提出要請の１件につきましては、各会派・グループに持ち帰っていただきまして、取扱いを協議していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

続きまして、日程第３ その他に入ります。

まず、委員の皆さんから何かありませんでしょうか。

【尾崎議長】 質問の提出の件でございます。再確認ということでちょっとさせていただきたいと思います。

あさって正午まで質問通告となっております。従来は、通告最終日といいますか、正午までというふうになっておるその日には、必ず議員本人が事務局に来て、そしてそこに議長もおりますので、例えば質問の確認ですとか、そういうことを本人が必ず事務局に来ていただいてやるというのが原則であるというふうに認識しております。

しかし、昨今といいますか、３月、そして昨年１２月、今までメールで質問の通告書を事務局に送られてきて、それで当日、事前にその内容を事務局が確認しておるわけですが、最終的には、メールで送られた本人も、例えば最終日の午前中に必ずそういった通告書を、プリントアウトされた紙を持参して、そして議長の確認印を押してやるというのが原則だったんですが、若干それが不徹底だということがありました。

そこで、再度皆さんにお願いしたいというか、各会派・グループの皆さんに再度確認していただきたいのは、メールで送られても必ず通告日に事務局に来て、私はずっとおりますので、そして、どうであったかと確認した後に帰っていただければ。訂正があれば、いろいろと事務局でやり取りする、あるいは修正してとかがあれば、やっぱりそれで私と会話するという形でやるというのが原則なので、それを再度徹底していただきたいというお願いでございます。

私は以上でございます。

【原委員長】 よろしいでしょうか。

議長宛てに質問通告するわけでありまして、議長が許可というか、受け付けない前にその通告者がおられないという例もあったそうでございますので、当然、メールはメールで送られて、なおかつ、本当の通告書につきましては、本人さんが持参していただいて、議長に確認していただいて、決裁をもらった後、帰っていただくということでございますので、また、今議長が言われましたけども、各会派・グループ、それぞれご確認をさせていただいて、徹底していただきたく思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【古沢委員】 いや、正直言うて、私、初めて聞いたんやけど……。

【開田委員】 私も初めて。

【岩城委員】 私も初めて聞いたんやちゃ。あきれかえっておる。

【古沢委員】 固有名詞はいいですけど、やっぱりあったんですか。

【吉森委員】 来んだということですか。来んだということ。へえー。

【尾崎議長】 前局長のときに、そういうのがありました。

たまたま内容的に全く問題がなかったんで、一応私はそれでよしとしましたけれども、やっぱりこれがなし崩し的になってはいけないので、本来の在り方ではちょっとないということで、再度、軌道修正をしたいというふうに思います。

【原委員長】 事務局のほうからも、きちっとその旨を通告された方にお伝え願いたいと思います。

【岩城委員】 私らは最初、メールは駄目ということを聞いておった。絶対駄目で、本人が持ってきてくれと。そういうことを徹底されておったがやちゃね。そこら辺りがなし崩しに、そこで受け付けてオーケーみたいなことをやっておってちゃ、やっぱり示しがつかんちゃ。徹底してもらうがでって。

さ、事務局サイドがもうちょっとしっかりとしてもらわんことには、局長も替わられたことだし、あれかしらんけども。

これは、最初、議員になった頃から話は、本人が持ってきてくれということ、何があろうとも。そういうがを受け付けていること自体が、ちょっといかなもんかなということで、徹底してもらいたいです。

【開田委員】 今話を聞いておって、ご本人がメールで出しました。当日おられんがに受け付けの判こを押して出したということですね。

【古沢委員】 来ていないのに。

【開田委員】 来ていないのに。

【中田局長補佐】 通告日に、来られなかったことはあります。必ず別の日には来ていたでいたんですけれど。

【岩城委員】 そうなが。やっぱりそういう……

【開田委員】 ちょっと乱れたわけね。元に戻してもらいます。

分かりました。

【岩城委員】 徹底してください。

【原委員長】 この件については、よろしいですか。事務局のほう、また徹底して。

【尾崎議長】 メールとかは補助的なことで、担当事務局が事前チェックする、前もって情報をもらうという意味では、それはそれで、あながち何が何でも駄目かなということではないような気はするんですが、やはり自ら紙でプリントアウトした物を持参して、そして私の決裁をもらって、それでやるという、これは大原則なので、再度徹底していただきたいということであります。

【古沢委員】 蛇足なんだけど、要するに、持ってきてもらうというのは、出された本人ははっきり趣旨を書いたつもりであったとしても、議長に出すわけだから、議長が見て、ここの趣旨、ニュアンスがいま一つはっきりしないなということだってあり得るわけです。それを確認してもらうために、本人に持ってきてくださいというふうに、面談をして確認したいということなのでそういう取扱いになっているというふうに私は理解しているので、事前にメール、LINEで送られることについては、時間的な問題もあるから、それはそれでいいと思うんだけど、確認の意味で、議長が確認をするためにということなので、それは従来どおりに。

昔もそういう話があったんですよ。LINEで送ればいいのに、わざわざ時間をかけてこんなんがけみたいな話はなかったわけじゃないんですけど、趣旨はそういうことだということをもう一回確認しておきたいと思います。

【原委員長】 それが駄目だからということで、本人が来てくれという、メールがやはり出した、出だした頃にそういうあれがありましたので、皆さんも徹底していただければと思います。

（異議なし）

【原委員長】 なら、この件については、それでいいですね。

それでは、もう一点あるんですが、前回の議会運営委員会の終わった後に、議員定数の削減ということで……

【古沢委員】 削減じゃないよ。

【開田委員】 見直し。

【岩城委員】 見直し。

【原委員長】 あ、見直しということで、青山副委員長のほうからそういう話があったわけであります。そのときには、6月議会で、いわゆる特別委員会をつくって云々という話も出たものですから、まずもって、どういった趣旨でそういったことを言われたのか。こ

ここで一回しっかり聞いていただいて、また皆さんで持ち帰って、議論していただきたいと思っております。

ちょっと、青山副委員長のほうから。

【青山副委員長】 お疲れさまです。

まず、先日の議運の後にお話になりまして、いわゆる定数の見直しも含めてちょっと考える場は欲しいと。会派自体は定数1名減でいけばいいなというのは、もちろん思いとしてはあるんですけども、まずこの議題をしっかり話し合って、議会の定数そのものが一体幾つの議席が正しいのかということも含めて、これは市民にも提言できることですし、考え直すきっかけになればなというふうな思いもありまして、お話しさせていただいたわけでありまして。

基本的に考えましても、なぜこんな話を発端的にするかといいましたら、前もお話したとおり、今の議席というのは何か、例えば議席をいじろうとしたときには指標が全くないわけですね。指標は周りの市町村がそうだからというような内容に終始しているように私は見受けられます。

今後考えていく上で、じゃ人口なのか、はたまた、行政区の区域の大きさなのかということも、ちょっとそこもまた議論だと思っておりますけれども、人口は明らかに減ってまいります。滑川市も一時3万4,000人いたところが、今はもう既に3万2,700人。

今後、今生まれた子が200人を割ってきていますので、その子がおじいちゃん、おばあちゃんになる頃には、滑川市は2万人になっているわけですね。ということは、少なからず少しずつ右肩下がりになってくる、滑川市はほかの市よりはいいとはいえ。

そういった部分も含めて、今後の、じゃ民主主義の在り方、議会の定数の在り方も含めて皆さんと、現職で話を一回していききたいなという趣旨でございますので、ぜひ特別委員会をつくらせていただければなというふうに思っております。

以上であります。

【原委員長】 今の青山副委員長への何か質疑があれば。

【岩城委員】 それは会派としての考え、会派でお願いしたいということですか。

【青山副委員長】 私がこれに答えるべきものなのかどうなのかですが、だからその特別委員会をつくっていただければなという思いで今話していますけれども、会派に持ち帰っていただいたり、その他グループで持ち帰っていただいて、いや、そこはつくる気はないんだよという話で、例えば今私が説明したような内容で、逆に、つくる理由がないじゃない

かという説明をいただければ、それはそれでまた協議なのかなというふうに思っております。

我々としては、会派としてはやっぱり一回この時点で、前回もほかの団体さん、商工会議所関係からもそういった話も一旦は出ておりましたし、議論する場ぐらいはあっていいんじゃないかというふうに思っています。

今古沢委員さんが、削減と言ったらすぐ言われたように、別にありきで持っていく必要もないと思いますけれども、一旦その話をするべきだなというふうに思っておりますのでお諮りいただきたいなと。本当にそういう趣旨です。

【岩城委員】 なら、持ち帰って、すればいい。

【原委員長】 ほかに何か。

【古沢委員】 さっき委員長は確認されたけど、それは会派の中でそういう話として、議論をする場をつくってほしいというのは、会派としてのまとまった意見なんですね。

【青山副委員長】 はい、そうです。まとまった意見です。個人的な濃淡は別として、まとまっています。

【岩城委員】 会派はそういう考え方ですよということけ。

【青山副委員長】 はい。

【原委員長】 よろしいですか。

(異議なし)

【原委員長】 じゃこれにつきましても、各会派、皆さん、また持ち帰っていただきまして、次回の6月18日の議会運営委員会で皆さんのご意見をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいたします、取りまとめのほう。

【古沢委員】 すみません、ちょっと話が戻って申し訳ないんですけど、この間、実は会議が終わった後でこんな話が出たということは、私はその他のグループ、会派じゃない、で一応お話をしましたが、あのとき理由というのがはっきりしていなかったんで、理由が分からないので、これ以上のコメントは私はできませんという意見だったので、今おっしゃったので言うと、人口減少が見えているからというのが一番大きな理由というふうに認識していいんですね。

【青山副委員長】 はい、そうです。

【原委員長】 ほかにありませんか。

(特になし)

【原委員長】 それでは、会派、その他のグループ、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から何か、その他、ありませんか。

【石井局長】 特にございません。

【原委員長】 それでは、次回の議会運営委員会は6月18日火曜日午前9時から開催いたします。

以上で本日の議会運営委員会を閉会いたします。

お疲れさまでございました。

午後0時36分閉会